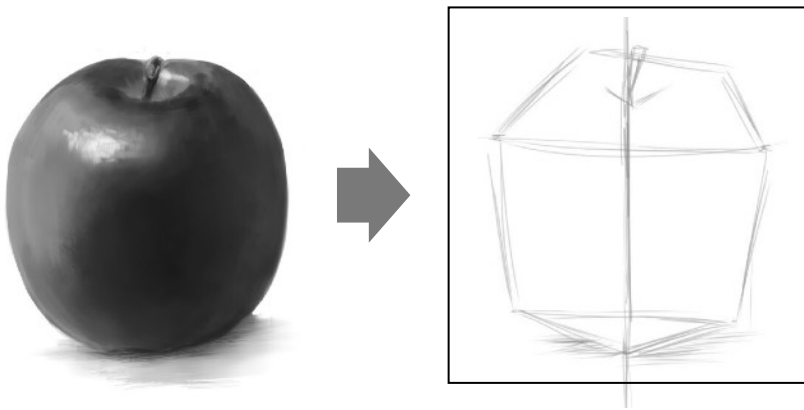


鉛筆で描く -アタリをつけて描く-

#アタリ #色のせ #ハイライト

まずは、「アタリ」。これは、大まかな形や位置を決めることで、何でもない作業のようですが、仕上がりの質を左右する大きなポイントのひとつです。キャンバスとなる用紙のサイズに対して、描こうとするものの大きさ、その背景とのバランスなどを考えて描きましょう。

例題 画面いっぱいにごんごを描いてみよう



例えば、例題の条件でりんごのデッサンをする場合、左の図のように、画面の大きさに対して位置や余白のバランスを考えて「アタリ」をつけます。今回は、はじめに中心軸を定め、直線で作業をしてみます。

次に「色のせ」。はじめは、色（陰）の濃いところから作業するようにしましょう。やみくもに手を動かすのではなく、モノの形に沿って線を重ね、のせていくイメージです。モノの形を目で見てよく観察し、色をのせていきましょう。光と陰に注目するのがポイントです（目を細めて見てみるとわかりやすいかも）。

最後に「ハイライト」。少し離れて見てみるなど、改めて描くものの明暗を捉え、最も明るい部分を消しゴムでたたく（練り消しがあればベスト）などして表現してみましょう。やりすぎると自然物らしさが損なわれるので、適度に抜いたあとは、指でこすって他の部分となじませます。

仕上がったら、「影」も描いてみましょう。可能であれば、鉛筆の濃さを変えてみて！

#野菜 #金属 #ご自由に

今回の課題は、野菜をひとつ、金属製のものをひとつ。そして、自分たちで選んだものをひとつ。計3点の静物を描いてみます。よく観察し、その形や質感の特徴を表現することはもちろんですが、アタリ・色のせ・ハイライト、この手順をしっかりと踏んで描くことを身につけてください。

